

野鳥たより

—北海道—

第 3 3 号

編集者 北海道野鳥愛護会
発行者 北海道国土緑化推進委員会
発行日 昭和53年9月21日



ロウバシガン 英国マーチンメア 撮影 萩 千賀 7頁参照



もくじ

探鳥地案内(新得山).....	2
探鳥会案内.....	2
旭川周辺の野鳥.....	山田 良造.....3
鳥を観る時のスタイル.....	飯山五玖子.....7
さえずり欄.....	8
コクガンの飛来と霧多布湿原の水鳥たち・美唄でハチジョウツグミ発見・もどってきた首環白鳥とユキホオジロ・ガンの大群観察(サロベツ)・網走地方の鳥二題(コブハクチョウ、ヒシクイ)	
探鳥会報告.....	野幌・植苗・ウトナイ・福移.....10
鳥民だより.....	12

新得山

探鳥地案内

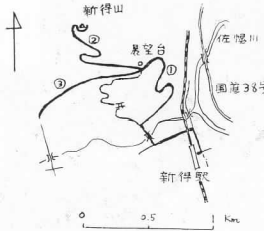
◆位置 新得町新得

◆交通 根室本線新得駅下車、新得山登山口まで徒歩10分。

◆探鳥地 新得駅を出て本通りを右へまがり、本通橋を渡る手前で左に曲って踏切を渡り、しばらく行くと右手に鳥居がある。この鳥居をはいった正面が登山口である。探鳥には新得神社の階段下にある観光会館右手の「新四国八十八カ所」を歩く方がよい。落葉広葉樹の天然林の中を登り、途中スキー場を横切って展望台につく。(1.4km①)、ここから山頂までは車道を歩く(1km②)。山頂近くはミズナラを主とする林になっている。このほか展望台から道立林業試験場道東支場裏にでるコースもある(1.3km③)。

◆見られる鳥 エゾライチョウ、キジバト、ツツドリ、ヤマゲラ、アカゲラ、コゲラ、ビンズイ、ヒヨドリ、コルリ、クロツグミ、アカハラ、ツグミ、ヤブサメ、ウグイス、エゾセンニュウ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、アオジ、オオマシコ、ウソ、イカル、シメ、ニュウナイスズメ、ハシブトガラスなど。渡りの時期には、クロジ、コマドリなども見られる。

◆地図 5万分の1新得、2万5千1分の新得、狩勝峠(藤巻 裕蔵)



12月までの予定。日程表に記入してお忘れなく。会員以外の参加も歓迎。多数のご参加を。

〈野幌森林公園探鳥会〉

とき 10月22日(日) 午前8時

集合 国鉄バス「北海道女子短大前」停留所
木の葉も落ちて鳥がみやすくなります。秋の渡り、冬鳥を見ませんか。

〈ウトナイ湖探鳥会〉

とき 11月16日(日) 午前10時

集合 ウトナイ遊園地 中央バス。ウトナイ湖下車
ガン、カモなどの水鳥の観察

〈小樽港探鳥会〉

とき 12月10日(日) 午前10時

集合 国鉄小樽駅待合室

小樽港第3埠頭から船にのり、港内の探鳥、カモメやカモ類、アビやウミスズメ類がみられるでしょう。防寒の用意をして下さい。

〈野幌森林公園を歩きませんか〉

とき 10月8日。11月5日。12月3日。

集合 午前8時「北海道女子短大前」停留所

日時の変更などがあるかもしれませんので、参加される方は、前日までに下記へご連絡下さい。

連絡先 柳沢信雄 電話(851)6364

羽田恭子 電話(611)0063

※ 雨天のときは中止します。

※ 昼食、雨具、筆記用具などをお持ち下さい。

旭川周辺の野鳥

山田良造

私は鳥の美しさに魅せられ、余暇の殆んどを観察に歩いています。しかし、これで旭川の野鳥分布状況が、すべて明らかになった訳ではなく、不十分な資料ですが、私自身によるこれまでの記録に、探鳥仲間の情報を加えたものを報告します。

1. 観察期間

昭和47年～昭和53年6月までの5年6ヶ月の間

2. 観察地域

旭川市と隣接町村の一部（但し大雪山系を除く）

3. 地域の環境

旭川市は上川盆地の中心にあり、石狩川の支流美瑛川・忠別川・牛朱別川・オサラッペ川の合流点にあたる。平地は水田地帯であり、東に国立公園大雪連峰を望むことができる。自然環境が比較的良好に保存されている所として、市街地にありながら広葉樹自然林が残っている神楽岡公園及び春光台、針葉人工樹の神楽見本林、嵐山等があり、郊外では針広混交林の富沢、江丹別、東旭川米飯地区の山林等があげられる。

また旭川は内陸部のため湖沼が少なく、冬季には河川が凍結するときがあり、水鳥の生息条件は悪い。

しかし嵐山は天塩川～オサラッペ川～石狩川の接点にあり、渡り鳥の中継地とも言われており、市内第一の野鳥観察地である。

4. 鳥相の概要

私が旭川にきて観察した鳥は、次の43科164種（及び亜種）である。

夏鳥	78種	(48%)
留鳥	31種	(19%)
旅鳥	9種	(5%)
冬鳥	46種	(28%)

この内、繁殖している鳥は67種(41%)であった。

(1) 夏鳥たち

大雪山系で繁殖するコマドリ、ノゴマ、ルリビタキ、クロジ等が雪どけの頃、神楽岡公園、春光台、嵐山等で何日間か休息しているのが観察されている。昨年はオオルリが嵐山北邦野草園売店に営巣し話題になった。

旭川はワシタカ類の多い所で、市内の公園、郊外の山林にオオタカ、チゴハヤブサ等が繁殖し、昨年はチゴハヤブサが6箇所で営巣しているのが確認された。しかし受難もあった。永山流通団地工業用地や豊岡学校予定地の休耕地に繁殖したシマアオジ、コヨシキリ、ノビタキ、ホオアカ、オオジシギ等は、用地が整地され、卵を抱いた状態で営巣地を失った。

石狩川、美瑛川、オサラッペ川、その周辺の沼では、イソシギ、コチドリ、バン、カルガモ等が繁殖しているが、河川の造成で営巣地が狭められている。その一方で嬉しかったことには、一昨年河川工事で営巣地を失ったショウドウツバメが、美瑛川に営巣地を移転していたことである。

(2) 留鳥たち

大雪山系では繁殖しているクマガラの番いが、昨年は市街地の近郊山林で観察された。今年3月には神居、嵐山で2例コアカゲラが記録され、大雪山系より北および東側に分布とされているだけに話題になっている。

春光台、神楽岡公園、それに神楽見本林では、エナガ、フクロウ、トラフズクが繁殖していた。しかし嵐山に繁殖のエゾライチョウがキタキツネに狙われ、春光台に営巣していたヤマゲラは、コムドリに巣穴を奪われるトラブルがおこった。

冬の嵐山では、ミヤマカケス、ハシブトガラ等10種類以上の留鳥が確実に観察される。

(3) 旅鳥たち

春と秋の渡りのシーズンには、石狩川、美瑛川、オサラッペ川、東川貯水池等で、メダイチドリ、キアシシギ、アオアシシギ、ツルシギ、ハマシギ、オグロシギ等が観察され、ときには市街地の灯りを求めて、アカエリヒレアシシギが迷いこんでくる。昨年はツルクイナが保護された。

(4) 冬鳥たち

冬鳥たちは、9月に入るとコガモをトップにその後マガモ、カワアイサ、ホオジロガモが近文から春志内にかけての石狩川に飛来し、100～200羽の群れをなして羽を休める。この地域が禁猟区に指定されたことを、よく知っているようである。

12月に入ると、このカモ類を追うかの如くオジロワシが渡来する。2,3羽と個体は少ないが毎年のように記録されている。

旭川市はナナカマドの多い街でこの実を求めて、ツグミ、キレンジャクが、100～200羽の大群で市内を舞い、市民に親しまれている。

また冬鳥のキレンジャク、イスカ、マヒワ、ベニヒワ等は気紛れか、その年によっては飛来しないこともあり、そんな年は市民をやきもきさせるが、今年、見本林でイスカの群れに、ナキイスカが5羽も混っていて、愛鳥家たちを喜ばせた。

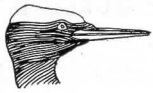
旭川周辺の鳥類リスト

() 亜種 ◎繁殖している野鳥

科名	種(亜種)名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
カイツブリ	カイツブリ アカエリカイツブリ				—	—	—	—	—	—	—	—	—	聖台貯水池 ◎聖台貯水池で繁殖
ミズナギドリ	フルマカモメ			—										52.3.14 永山で保護
サギ	アオサギ アマサギ				—			—						52.7.3 旭神町
ガンカモ	ヒシクイ オオハクチョウ コハクチョウ オシドリ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ シマアジ キングロハジロ シノリガモ ホオジロガモ ホシハジロ カワアイサ ミコアイサ				—	—	—	—	—	—	—	—	—	上空通過 4月石狩川で少数休息 上空通過 ◎ ◎鷹栖、美瑛で繁殖 ◎個体数多い 52.7.20 鷹栖 嵐山、石狩川 53.6.2 美瑛で番いを記録 聖台ダムで毎年記録 53.2.5 石狩川で記録 石狩川に多い 石狩川に多い 石狩川
ウミツバメ	ハイロウミツバメ			—										52.1.5 市内で保護
ワシタカ	トビ オジロワシ オオタカ ツツ ハイタカ ノスリ クマタカ ハイロチュウビ				—	—	—	—	—	—	—	—	—	◎ 嵐山へ伊納、石狩川 ◎51.52.53年鷹栖で繁殖 繁殖の可能性あり ◎52年市内で繁殖 51~53年嵐山 47.10 春光台
ハヤブサ	シロハヤブサ ハヤブサ チゴハヤブサ チョウゲンボウ	—	—					—						50.1.24 51.3.4 嵐山 52年旭神町 ◎52年は市内で6箇所営巣 52.1.9 上川神社で保護
ライチョウ	エゾライチョウ													◎
キジ	ウズラ コウライキジ													◎春光台等で繁殖
クイナ	ヒクイナ ツルクイナ ババン					—	—	—	—	—	—	—	—	52.8 東旭川、米原 50.10.18 市内で保護 ◎鷹栖で繁殖 50.9.15 永山で保護
チドリ	コチドリ メダイチドリ					—	—	—	—	—	—	—	—	◎石狩川で繁殖 52.5.21 花咲町石狩川
シギ	オグロシギ ハマシギ タカブシギ キアシシギ アオアシシギ イソシギ ヤマシギ タシギ					—	—	—	—	—	—	—	—	52.9 東川貯水池 美瑛川、石狩川で記録 53.5.13 上雨紛 東川貯水池、石狩川 東川貯水池、石狩川、オサラッペ川 ◎石狩川に多い ◎嵐山、春光台で繁殖 東川貯水池、石狩川

科名	種(亜種)名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
シギ	ツルシギ									—				東川貯水池
ヒレアシシギ	アカエリヒレアシギ				—					—				渡りの途中、市内でへい死体記録
カモメ	ユリカモメ カモメ セグロカモメ					—					—			52年は60羽の群 50.5.6 金星橋に500羽 49.10.15 鷹栖で保護
ハト	キジバト アオバト			—	—	—	—	—	—	—				◎ 49.8.18 市内で保護 53.6.26. 春光台で奮い
ホトトギス	ジュウイチ カウツドリ				—	—	—	—	—	—				49.8.17 旭川大橋で保護 ◎
フクロウ	シロフクロウ トラフズク コミミズク オオコノハズク コノハズク アオバズク フクロウ				—	—	—	—	—	—				49.4.8 東鷹栖で保護 ◎見本林、嵐山、神楽岡公園で繁殖 50.12.3 神楽で保護 50.2.3 50.12.31 市内で保護 ◎嵐山で毎年記録、50年江丹別で幼鳥保護 上川神社で毎年記録 ◎見本林で繁殖
ヨタカ	ヨカタ						—	—	—	—				◎50年、江丹別で幼鳥保護
アマツバメ	ハリオアマツバメ アマツバメ					—	—	—	—	—				大雪山系で繁殖、市内に飛来する
カワセミ	ヤマセミ アカショウビン カワセミ				—	—	—	—	—	—				嵐山で生息 49.8.31 神楽で保護 ◎江丹別川で繁殖
キツツキ	アリスイ ヤマゲラ クマゲラ アカゲラ オオアカゲラ コアカゲラ コゲラ				—	—	—	—	—	—				◎ ◎ 嵐山、東旭川米飯 ◎ ◎ 53.3 神楽、嵐山で記録 ◎
ヒバリ	ヒバリ				—	—	—	—	—	—				◎
ツバメ	ショウドツバメ イワツバメ				—	—	—	—	—	—				◎忠別川、美瑛川で繁殖 ◎愛別に営巣地がある
セキレイ	キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンゼイ タヒバリ				—	—	—	—	—	—				◎江丹別で繁殖 ◎越冬するものあり ◎神居で繁殖 鷹栖で記録
ヒヨドリ	ヒヨドリ				—	—	—	—	—	—				◎
モズ	モズ アカモズ オオモズ				—	—	—	—	—	—				◎ ◎ 50.1 鷹栖 51.12.31 旭岡
レンジャク	キレンジャク ヒレンジャク				—	—	—	—	—	—				キレンジャクの群れに混じる。少数
ミソサザイ	ミソサザイ				—	—	—	—	—	—				嵐山、神楽岡
カワガラス	カワガラス				—	—	—	—	—	—				富沢、石狩川
ヒタキ	コマドリ ノゴリ コルリ ノビタキ ノビタキ マミジロ				—	—	—	—	—	—				52.5.4 神楽岡 神楽岡、春光台 ◎市内に多い 49.9.3 市内で保護

科名	種(亜種)名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
ヒタキ	トラツグミ				—									嵐山、神楽岡 52、53年市内でツグミの群に。 ◎ ◎ 群れをなし市内のナナカマドに飛来する 5月、9月に保護される例多い ◎ ◎ 48.9.5 市内で保護 ◎ ◎ ◎春光台で繁殖 ◎ ◎嵐山、旭山で繁殖 ◎神楽岡で繁殖
	(ハチジョウツグミ)		—	—	—									
	クロツグミ				—	—	—	—	—	—	—			
	アカハラ				—	—	—	—	—	—	—			
	シロハラ				—	—	—	—	—	—	—			
	マミチャジナイ										—	—		
	ツグミ										—	—		
	ヤブサメ										—	—		
	ウグイス										—	—		
	エゾセンニュウ										—	—		
	マキノセンニュウ										—	—		
	コヨシキリ										—	—		
	オオヨシキリ										—	—		
	メボソムシクイ										—	—		
エゾムシクイ										—	—			
センダイムシクイ										—	—			
クイタダキ										—	—			
キビタキ										—	—			
オオルリ										—	—			
コサメビタキ										—	—			
エナガ	(シマエナガ)													◎春光台で毎年繁殖
シジュウカラ	ハシブトガラ													◎
	コガラ													◎
	ヒガラ													◎
	ヤマガラ													◎少ない
シジュウカラ													◎	
ゴジュウカラ	(シロハラゴジュウカラ)													◎
キバシリ	キバシリ													◎
メジロ	メジロ													
ホオジロ	ホオジロ													◎上雨粉で繁殖
	ホオアカ													◎
	カシラダカ													◎豊岡、永山で繁殖。少ない
	シマオジ													◎
	アオジ													◎東旭川で繁殖
	クロジ													◎
オオジュリン													◎	
ユキホオジロ		—												51.1.21 オサラッペ川
アトリ	アトリ													◎越冬するものあり
	カワラヒワ													◎神楽岡、嵐山、見本林
	マヒワ													◎春光台
	ベニヒワ													◎春光台で毎年記録
	ハギマシコ													◎見本林、神楽岡で少数記録
	オオマシコ													◎見本林、神楽岡
	ベニマシコ													◎53年見本林で5羽
	ギンザンマシコ													◎嵐山、神楽岡でウソの群に混っていた
	イスカ													◎富沢で繁殖の可能性
	ナキイスカ													◎鷹栖で繁殖
ウソ													◎	
(ベニバラウソ)													◎	
(アカウソ)													◎	
イカル													◎	
シメ													◎	
ハタオリドリ	ニューナイスズメ													◎
	スズメ													◎
ムクドリ	コムクドリ													◎
	ムクドリ													◎越冬個体数多い
カラス	(ミヤマカケス)													◎
	ハシボソガラス													◎
	ハシブトガラス													◎



鳥を観る時のスタイル

飯 山 五 玖 子

コマーシャルを専門に制作している友人のディレクター氏から先日電話があった。

「ある毛皮のメーカーから男性用の冬用コートのCM依頼があり、時間は15秒位だけれど、モデルには、バードウォッチングのスタイルをさせようと思う、ついては、いろいろ話を聞きたい」というのである。

喫茶店ですぐ打ち合わせが始まった、D氏は、バードウォッチングが鳥を観察するものである事は知っているが、その他の事は、あまり御存知ないらしい。

「何が必要なのか」

「まず、双眼鏡、鳥類図鑑、降らずとも両具の用意」

「時間はいつごろがいいのか」

「早朝、しかも、かなり早い時間」

「その他に、どんなものが必要なのか」

「メモ帳……」

「食料品は？」「もちろん、おにぎりなんかがいいですね。」

今年ほど、探鳥、探鳥会、バードウォッチング、五月の愛鳥週間の少し前あたりから、これらの言葉を耳にした年はない。うれしいような、うれしくないような、正直そんな気持は、ぬぐえない。幾つになっても、少女っぽさの抜けきらない私は、鳥を観るという、こんなステキな愉しみは、自分一人だけの大切な大切な世界にしておきたいのだ。D氏の質問はさらに、「これが一番問題なんだけどスタイルはどんな風？」「実は、私にとってもそれが問題」D氏としては、ここに毛皮を登場させたいのである。

6年前の春、私は溝部泰子さんの誘いで探鳥会に仲間入りした、たしか、その日は、真駒内の桜山で、百武さんがいらした、桜山のすずしげな散策路に、ビンズイが姿を現わし、それが私と野鳥との最初の出逢いである。最初の探鳥会で、早くもバードウォッチングの愉しみを知ってしまった私は、翌日すぐ駅前のメガネ屋さんで、双眼鏡を求め「睫毛が邪魔になってよく見えないの」溝部さんに報告した記憶がある。

さて、スタイルは……と問われて、私は、この一番最

初の探鳥会の事を思い出すが、たしか踵の高い靴パンプスを履いて出掛けたような気がする。又もう一つこの質問で思い出すのは、小川巖さんがこの春出版した本の最後のページである。たくましい、まるで小川氏そのものではないかと思われる理想的なバードウォッチャーのスタイルが出てくる。

しかし、相手はCMである、そもいかないのです。商品は、売れなくてはいけないのです。D氏は又、撮影地は、どこがいいのでしょうかねエ…という、即座に勇払か、湖沼の近くがいいんじゃないかと答える。12月のイギリス、カーライルから、サウスポートに向う海辺の干潟にシギやチドリが群を成し、私達は、その群に狂喜した。その右手の一带にヒースの草原が続き、そこに犬をつれて猟をする二人の人影があった。あまりにイギリスの光景であった。その光景を勇払原野にオーバーラップさせるのは、虫がよすぎるだろうか。

イギリスでは野鳥のメッシュ調査を、すでに120年前に全域完了しているという、この違いは一体何なのでしょう。新年を一家で迎えるという習慣のないイギリスでは、大晦日だというのに、野鳥研究所は熱心な愛鳥家達でいっぱい、そこで私は、一つの発見をしたのですが、愛鳥家達はきまって、腰がすっぽり隠れる半コートを着、ニッカーボッカー、厚手のソックス、踵迄のしっかりとした防寒シューズ、毛糸の帽子、手袋を身につけ、これが英国に於ける紳士・淑女のバードウォッチングのスタイルなのである。永い間の試行錯誤がこの型を生んだのだと思う。この発見は、英国人の野鳥保護に対する関心の深さ、野鳥保護の歴史の深さを実によく表わしているように思う。私自身、バードウォッチングをはじめて6年目、いまだスタイルのパターンは無い、もちろん鳥の名さえまだよく知らないのだけれど。

自分のパターンが出来上がった時にこそ、人前で、私は、私の趣味がバードウォッチングである事を誇ろう。

それでは皆様、まもなくお目見えする毛皮のCMに乞う御期待！

ロウバシガンについて

この鳥の生息地は、オーストラリアの南岸沿いにある小島で、西はルシエルシュ諸島、東はバス海峡までである。全長およそ75センチ、雌雄の差は認められない。

い。頭部は小さく、くちばしは非常に短い、くちばしのつけ根は太く、緑色がかった黄色のろう膜がくちばしのほとんど全部をおおっている。あしは長くピンクで、ゆびとみずかきは黒色で羽毛は灰色で黒い斑がある。(朝日ラールスから)

さえずり



コクガンの飛来と 霧多布湿原の水鳥たち

浜中町 諏訪良夫

昭和52年10月29日午前9時ごろ、霧多布市街を結ぶ霧多布大橋から浜中湾よりにマガモよりちょっと大形の水鳥を発見。その瞬間、あっ、コクガンだなと思った。今年の春以来である。約10羽ほど、ちょうど大潮まわりで、この一帯が干潟になっており、そこを歩いたり、水たまりの中で採餌に夢中の様だった。例年、春と秋の渡りの途中で一休みと、1日か2日運が良ければ見られる。土地の人たちはカモの1種だぐらいに思っ、あまり気をつけて見ない。

浜中町は北海道の東海岸に位置する。隣の町は風蓮湖で有名な別海町だ。鳥の数や種類では決して風蓮湖に劣らない鳥類の宝庫だと思っている。先ず霧多布湿原がある。面積はしかと分らないが、東西15km、南北8km位の湿原の中に大小の湖沼が無数に散在してある。水鳥たちにとっては絶好の繁殖地であり、渡りの休憩地になっている。またこの湿原から数km離れた西方に火散布沼及び藻散布沼、東北にポロ沼等の湖沼があり、いずれも水鳥たちの繁殖地であり、休憩地である。

9月になると、ヒシクイ、マガンが10羽から数100羽の群をなして渡ってくる。近年、当地が休猟区になったせいか、数も多くなった様な気がする。朝早く湖岸に出れば、採餌に懸命な姿をいつでも見ることが出来る。しかし、用心深い鳥で、人間の姿を見ると沖へ出てしまうので注意が必要だ。これらは湖面が結氷する11月の中～下旬まで見ることができる。

白鳥の第一陣は、52年度は10月9日だった。10月中には火散布沼に200～300羽位見られ、寒さが厳しくなると南下する群と春まで残る組とに分かれる様だ。一番多い時には500～1,000羽を見ることがある。

霧多布湿原でもう一つ見落とすことのできないのは、天然記念物に指定されているタンチョウである。タンチョウは釧路湿原が有名だが、一番の繁殖地はこの浜中町の湿原や湖沼なのであり、霧多布湿原では約8番いのタンチョウが見られる。また、火散布沼、藻散布沼、ポロ沼等に約10番いのタンチョウが営巣し育雛している。この地に営巣するタンチョウは、他の地域よりもテリトリーが小さいのが特徴である。6月ごろ、黄色い雛を連れ

て歩いているのを時々見かける。初めは二羽の雛を連れてくるが、大きくなるのは大抵、一羽しかない様である。その原因は良くわかっていない。

浜中町は昨年全町休猟区になっているので、あと1年間水鳥たちの天国かと思われる。でもこの天国がいつまで続くのか、この地域の発展と開発等に左右されることと思われる。水鳥たちの安住を願う心と、我が街の発展を願う心が、複雑な想いをもたらしている。

(52. 10)

美唄でハチジョウツグミを確認

美唄市 中田圭亮

昭和53年12月19日。雪の降った朝、美唄市光珠内町東山(道立林業試験場の独身寮玄関前)に1羽の鳥がうずくまっていた。Sさんに拾われたこの鳥は無抵抗だったようで、残念なことに昼過ぎには死んでしまった。鳥類図鑑からツグミの亜種、ハチジョウツグミとわかりました。美唄では新しい記録です。

なお、その日の昼には寮横の小林地でもう1羽、今度は元気なハチジョウツグミを見つけました。尾の基部の赤さび色、胸から脇にかけての明かるい赤さび色の地に映えた各羽の白い三日月状の羽縁が大変きれいでした。ツグミとは明らかに区別できます。声については二声を聞いたのですが、ツグミとかわらないように思えました、この片われ(?)はどこかへ渡っていったのか翌日には見当りませんでした。

死んでしまったハチジョウツグミは試験場に標本として保管してあります。

全長230、翼長134、嘴峰長16、跗蹠長31.6、尾長98
(単位mm) 体重86g、性別♂ (53. 1)

もどってきた首環白鳥と ユキホオジロ

別海町 三浦二郎

昨冬の尾岱沼は異常寒波で長期間全面凍結して、越冬白鳥がピンチに陥ったことは、記憶に新しいことでしょう。その時15羽のオオハクチョウに緑色の首環をつけて放鳥され、そのうち3羽が死体で確認されましたので12羽が再びこの冬、尾岱沼に姿を見せてくれることが期待されたのですが、今のところ6羽が確認されております。さしずめ打率5割といったところです。

ユキホオジロは例年春別川河口に2～30羽来ていたのですが、これは昨年凍結した川口をのし歩くカメラマンに追われてどこかに姿を消してしまいました。今年もずっと姿を見せず駄目かなと思っていましたら、最近カメラマンの足許3m位の所に近寄って、何やらついばん

でいます。おかげで私もアップで撮影できました。

ちなみに今冬も尾岱沼は全面凍結しており、一日も早い解氷が待たれます。(53. 2)

雁の大群観察 (サロベツ)

留萌市 佐賀 耕一

◇日時 昭和53年 4月22日 午前11時35分から45分まで
10分間(時計で確認) 11群約130羽

天候 快晴、風やや強い

観測地点 天塩町(天塩川の古河)

飛行ルート 天塩川の古河の方よりパンケトウ、パンケトウ方面へ(利尻富士を左にして南より北へ)

飛行の高度 約30メートル

コースの幅 約500メートル

4月22日仕事を終え、音類より天塩へ向け車で走行しておりましたが、偶然にも前記の場所において、雁の渡りを発見し、あまりの見事さに車よりおり観察を致しました。

周囲はサロベツ原野続きの湿原で、すぐ頭上を大は、30~35羽、小は5~6羽のグループで、コースの幅約500メートルの中を、南より北へ鳴きかわしながら、独特の編隊を組んで、パンケトウ方面へ飛んで行きましたが、パンケトウには下りなかった様でした。

初めの内は数をかぞえていましたが、80羽くらいの時にわからなくなりました。次々とグループがくるので、グループの数だけを数えましたところ11グループで、少なくとも130羽或いはそれ以上だったと思います。

飛来した方向は天塩川沿いに名寄の方からきたのかなと思いましたが、遙かに右寄りて天塩の方からきておりますので、ハハ-天塩川の古河からきたなと思えました。

この天塩川の古河はクツチャロ湖より約10日くらい早く水面が出て、毎年白鳥や黒い鳥(雁?)が来ており(国道より望見出来ます。)(53. 4)



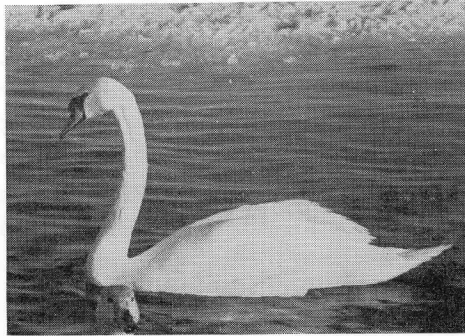
網走地方の鳥 2 題

佐呂間町 林 倫子(文)

林 秀明(写真)

コハクチョウ

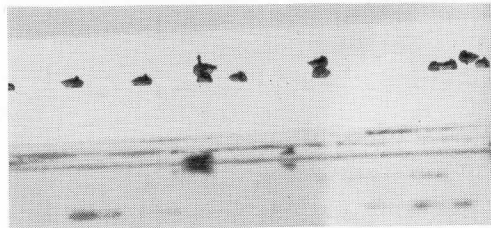
1978年3月下旬に小清水町トウフツ湖にコハクチョウ1羽が飛来してきました。3月25日に見つけ、それ以来機会あるごとにトウフツ湖へと足を運んでみました。オオハクチョウの群からいつも1羽だけ離れてエサを採っていました。3月30日にみたのを最後にそれ以降、数百羽のオオハクチョウの中にコハクチョウの姿を見つけることはできませんでした。(撮影53年3月26日)



ヒシクイ

所は網走郊外の能取湖。夕方陽の沈む少し前にイモ畑で、終日遊んでいたヒシクイが数10羽づつ群をなして凍結している能取湖に帰ってきます。その数は3~400羽にもなります。主人は写真を、私はヒシクイの録音をと、4月15日から折をみてはでかけました。

夕方であることと、遠方であることになかなか気に入ったものがとれません。4月21日にも出かけたのですが、遠くの方で数羽が飛んでいるのがみられただけで、3~400羽の群を見つけることはできませんでした。能取湖はすっかりとけていました。もう北へ帰ったのでしょらね。



4月15日18時30分頃撮影。あたりはかなり暗くなっておりシャッタースピード1/2秒という超スローで写したものです。左側の1羽だけがみんな休んでも首をあげて見はりをしていました。(53. 5)



野 幌

53. 5. 14. 8:00~13:30
(愛鳥週間行事)

(6年) 近藤みのり

私の学校は、町のまん中にある創成小学校です。そこには、木といえばちの木やいちょうの木がすこししかはえていません。そこへくる野鳥は、カラス、スズメ、ハトの3種類です。私の家は祖父の植えた木がたくさんあります。そこへくる野鳥は、ムクドリ、カワラヒワ、アトリ、キレンジャク、ハクセキレイ、イスカ、スズメ、シメ、カラス、ツグミ、カシラダカ、シジュウカラ、トビ、オオアカゲラ、ウグイスの15種です。私の知っている鳥はそれだけです。

今度初めての探鳥会で野幌の原始林へ行きました。大きな森には、野鳥がたくさん飛んでいて、野鳥愛護会の方たちが鳴く声や飛ぶすがたで名前を教えてくださいました。野草の名前もたくさんおぼえました。本でおぼえたスカンクキャベツがザゼンソウだったことも判りました。美しい声で鳴くオオルリのきれいな色、ホオアカやイソシギ、アオジ、コゲラは、はっきりみえました。ただ木があまり大きいので高い所に止まった鳥は光の具合ではっきりしないことが多くさんねでした。それでも帰りに数えたら36種の野鳥がいることが判りました。野鳥もだんだん見なれてくるとすぐみつけれられるようになりました。

これからは、野鳥愛護会の人たちのように鳴き声で鳥の名前が判るようになったら楽しいアーと思います。



〔記録された鳥〕ムクドリ イソシギ シメ ホオアカ
ヒバリ キジバト モズ オオジシギ ハシブトガラス

ハクセキレイ アカハラ アオジ ニュウナイスズメ
ヤマゲラ ゴジュウカラ コサメビタキ センダイムシ
クイ シジュウカラ ヤブサメ コゲラ アカゲラ カ
ワラヒワ エナガ オオルリ ヒガラ エゾライチョウ
メジロ オオアカゲラ コルリ ヤマガラ クロツグミ
ヒヨドリ トビ カケス イカル ハシブトガラ 36種

〔参加者〕渡辺秀樹 村野紀雄 白沢昌彦 土田純一
梅木賢俊 俵浩三 近藤佳子・みのり 星泰子・純子
半沢正九郎 飯山五玖子 小林清勇 野村登志子・やよ
い 相磯成令・智子 岩間和彦・英子 新宮康生 羽田
恭子 柳沢信雄・千代子 野々村菊 三木昇 早瀬広司
・富 馬場錬成 岩泉ゆう子 (29名)
(担当幹事) 梅木賢俊、柳沢信雄

植 苗

52. 6. 5. 9:00~13:30
(おそまきながらご報告)

溝部 泰子

長い間ぐずついていた空が、うそのように晴れて暖かい探鳥会びよりになりました。ノゴマの見込は線路ぞいが強いけれど、なにか水鳥も、と欲ばって、まっすぐウトナイ湖へ。気候不順のせいか、例年より草たけが低く鳥の個体数は少ないようでしたが、種類はほぼそろって、草原の夏は、いま始まるというところでした。

〔記録された鳥〕ヒバリ スズメ ノビタキ キジバト アオジ カッコウ モズ センダイムシクイ ハシブトガラス トビ ホオジロ エゾセンニュウ ヒヨドリ メボソ ムシクイ オオジシギ コヨシキリ アカハラ ビンズイ ツツドリ イカル カワラヒワ コサメビタキ キビタキ ホオアカ シマアオジ シジュウカラ メジロ マキノセンニュウ オオジュリン エナガ アオサギ ハクセキレイ ショウドウツバメ アカモズ トラツグミ ハシボンガラス ムクドリ コムクドリ ヨシガモ ウグイス カルガモ シメ 42種

〔参加者〕小野寺敬子 野々村菊 早瀬広司・富宮下小次郎・しげ子 速水愛二郎 山口信子 三木昇 半沢正九郎 鷺田善幸 飯山五玖子 新妻博 野村梧郎 森拓人 羽田恭子 四十万谷吉郎 巨野寿衛吉 梅木賢俊 野口正男 溝部泰子 21名
(担当幹事) 野口正男、溝部泰子

野 幌

53. 4. 16. 8:00~14:00

柳沢 千代子

今にも雨の落ちてきそうな空模様を心配しながら参加

する。参加者5名と少人数でさみしかった。

まだ残雪が多く、大沢コース往復とする。かた雪で歩きよかったが、途中時々雨にみまわれ、傘をさしての探鳥となる。

夏鳥の初認を楽しみにきたのだが、あいにくの天候のせい、夏鳥にあえないばかりか全体の種類も20種をわり、がっかりする。

また、トランシーバーで連絡をとりながら動くグループにあった。写真グループの営巣木さがしらしく、いやな気持ちがあった。この日の天候のように、ぱっとしない探鳥散歩となった。

〔記録された鳥〕 ムクドリ、ハクセキレイ、スズメ、カワラヒワ、アオサギ、ハシボソガラス、キジバト、ヒヨドリ、トビ、ヤマゲラ、アカゲラ、カケス、コゲラ、エナガ、ゴジュウガラ、ハシブトガラ、ヤマガラ、モズ 18種

(参加者) 羽田恭子、野々村菊、早瀬広司・富、柳沢千代子 (野幌探鳥散歩グループ)

ウトナイ

53. 6. 11. 9:00~12:30

天童 雅俊

新聞の片スミに探鳥会の案内を眼にした。妹をささう。彼女も鳥に凝り始めたところ。5月の連休にアカゲラの巣を見つけ、2人して喜んだりしたせいもあるか、すぐに「行こう、行こう」となった。

鳥たちにも、こちらの熱意が通じたのか、結果は期待以上。30数種類が、いまにも降り出しそうな天候にも関わらず、わざわざ姿を現わしてくれた。常に人間様より一歩先を行くらしい、そんな気にもなる。多少食傷気味のヒヨドリを除いては、写真でしか見たことのない鳥ばかりだった。

それでも、人間の方がやっぱり一枚上手、と結論したい。何も知らない素人に手取り、足取り、30数種類を覚えてくれたのは、ベテラン会員の人たちなのだから。スポッティング・スコープをのぞいたのも、この日が初めて。うれしかった。初参加の私たちに、自分のことは二の次で気を使ってくれた。

探鳥会の魅力に、人間の親切、という側面があるとは知らなかった。自分もいつの日にか、あのような「ベテラン」になれたら、と思った1日だった。

〔記録された鳥〕 ハクセキレイ カワラヒワ スズメ ホオジロ オオジシギ センダイムシクイ カッコウヒヨドリ アオジ ツツドリ エゾセンニュウ ハシボソガラス コヨシキリ シマアオジ ヒバリ オオジュリン ノビタキ ヨシガモ アオサギ アカハラ カルガモ ヒドリガモ トビ ベニマシコ マキノセンニュウ

ウ シマセンニュウ キジバト シジュウカラ チュウヒ ホオアカ シメ コムクドリ 解散後 コサメビタキ ビンズイ イカル 35種

〔参加者〕 横浜佐和子・裕明 速水藤二郎 鷺田善幸 山本幸一 中野利夫・みや子・弘樹・智也・唯史 山本一・とよ子 天童雅俊・幸枝 羽田恭子 新宮康生・四十万谷吉郎・清子 半沢正九郎 野々村菊 飯山五玖子 津田新平 梅木賢俊 平井さち子 野口正男 25名

(担当幹事) 野口正男 平井さち子

福 移

57. 7. 2. 8:00~12:30

山 本 一

福移。この探鳥地は、牧場、柳の林、小さな沼、草地等を含む広大な土地で、その東側は石狩川、西側は高い堤防によって外部から隔絶された野鳥の楽園である。雨はすっかり上り青空が見え始め、牧場で悠々と草を食む牛、遙か北方の札沼線の鉄橋をオレンジ色の自動車、音もなく通りやがて緑陰に姿を消すという環境である。

ギョギョシ、ケアシ、ビビビビと、盛んに鳴くのは、コヨシキリでスタイルはなかなかよらしくて貴公子風というところ、一番目についたのは、ショウドウツバメであった。文字通り燕返ししの飛行で、反転の際によくも何かに衝突しないものだと感心をする。大きな鳥で目につくのはアオサギで、大空を悠然と飛ぶ姿はなかなか優雅である。飛翔中は首を縮めて飛ぶそうであるが、確かに気をつけて観察するとその通りで、そのくせ対岸の石狩川の岸辺に舞い降りたときには、首を真すぐに伸しているから妙である。石狩川対岸の絶壁に無数のショウドウツバメの巣穴が見られたが、それから出入りしている燕は、もう見当らなかった。上空を盛んに飛んでいる中に、今年生まれの幼鳥も沢山入っていると思われた。

参加者の中から、今ウズラの声が聞えたとか、シマセンニュウが頻りに鳴いているが、草叢の中に入っているらしく、センニュウ(潜入)だけのことはあるとか、あそこにムクドリが飛んでいるとか次々に報告がある。

小鳥たちは、電線の上、牧棚の上、大きな草、木の梢と、彼等にとって見晴しのよいところで楽しそうに囀るのが多く、これは会員にとって観察に便利であった。町の中の小鳥が気ぜわしく、すぐ姿を隠す傾向があるのに比べ、ここは環境がよいせいか小鳥たちがおっとりとした感じであった。特にベニマシコなどは、左を向いて囀っているかと思うと、次には右の方もご覧下さいとばかりに、向きをかえ美しい声で鳴くので一同は大喜びをする。又鳴声はするが姿が見えず、是非見たいと話しながら歩いていたが、当番幹事が探し当ててくれた鳥。その鳥の名はノゴマ。のどの下が誠に鮮かな赤で、あまりの

素晴事に一同嘆声を上げた次第である。有難いことにプロミナーを通して、入れ替り立ち替りより手近により大きく観察している間も、飛び去ろうともせず囁り続けてくれたことである。又本州には、ほとんど見当らなくて北海道に在るといわれているシマアオジの魅力的な姿と可憐な鳴声にも接することができた。

今日の探鳥会は、少し雨に当たったり、朝も早くから出掛けて来たが、その苦勞の甲斐があったというのが大方の感想であった。早起きのためか一同空腹を覚え、小高い草場で早おひるを戴いた。天候は回復し、近くに小鳥の声を聞き、遠くにトビの舞うのを見ながらの食事であった。食事中放牧の牛が物珍らしそうに近づいてくるので、馴れぬ者は侵入者に驚ろいたが、牛にとっては人間の方が侵入者と思っているかもしれぬという会員もあった。事実、我々が牧柵の中に入っているのだ。野の鳥に

とつても人間は侵入者と見えるかもしれないと思ったりした。

〔記録された鳥〕カッコウ ショウドウトツバメ カワラヒワ スズメ オオジシギ モズ ホオアカ ムクドリ ウズラ エゾセンニユウ シマセンニユウ コヨシキリ ベニマシコ アカハラ アオサギ コチドリ イソシギ ハクセキレイ オオヨシキリ トビ キジバト ノビタキ オオジュリン ノゴマ ヒバリ シマアオジ カモメ カイツブリ コムクドリ アカモズ ハシボソガラス カモのヒナ (種不明) 32種

〔参加者〕野々村菊 天童雅俊・幸枝 山本一 萩千賀 早瀬広司・富 柳沢信雄・千代子 四十万谷吉郎 山本幸一 野口正男 羽田恭子 13名
(担当幹事) 野口正男 羽田恭子

会費納入状況とお願い

1 今回の第33号野鳥だよりと一緒に、「会費納入状況のお知らせ」を同封します。お確かめ下さい。

会費は会の活動、特に「野鳥だより」の発行の原動力です。昭和53年度会費未納の方は、至急納入下さるようお願いいたします。又昭和52年度会費未納の方で、8月末日までにご連絡を頂けなかった方々は、退会なされたものとしました。

なお8月末日現在の昭和53年度会費納入状況は、次のとおりです。

2 会費納入の際は郵便振替(振替口座・小樽 18287

	登録員数 (52年度納入者 と新規会員)	納入者数 (53年度分)	納入割合
個人会員	402名	254名	63%
団体会員	7団体	4団体	57%

番北海道野鳥愛護会)をご利用下さい。また特にご請求がなければ、会の領収書はお送りしませんからご了承下さい。

3 今後、時折「野鳥だより」に「入会の御案内」や郵便振替の払込用紙を同封しますから、会費の納入や新規会員の輪を拡げるのにご活用下さい。

(総務・会計幹事新宮記)



▲この夏の催し 野鳥関係の次の催しが札幌で開かれました。<北海道の野鳥写真展>

6月9日～7月22日 於三井信託銀行ロビー 展示枚数約50点 当会会員の写真が多数展示されました。<夏休み子供博(野鳥コーナー)> 7月～8月 於道立産業共進会場 なお期間中に使用された野鳥パネルが主催の北海道新聞社から当会に寄贈されていますからそのうち会員の皆様も御覧になれるでしょう。

▲原稿・写真・カットを待ってます。各地の鳥相

(原稿用紙16枚ぐらゐまで)随筆(4枚)さえずり欄(2枚)探鳥地案内(2枚)や写真など、ご連絡くだされば原稿用紙(25字20行)をお送りします。

▲鳥民だよりコーナーの利用、会員同志の照会や依頼等にも御利用ください。

▲チェックリストの記入はもう済みしました

野鳥の繁殖シーズンが終り、夏鳥の記録は出揃ったことと思います。31号に同封したチェックリストを使ってみた感想はいかがですか。秋に入ると共に、多くの方から事務局へ送り返されてきつつあります。3年後の集積を目指して皆様のご協力をお願いします。お申し出があれば何枚でも送ります。ご一報下さい。

〔編〕〔集〕〔後〕〔記〕

木の実が紅くなり、鳥影の多い探鳥の季節となりました。この秋、皆様のウォッチングスタイルはまた一段とみがかがかることでしょう。藤巻さんから紹介のあった新探鳥地、新得山へもいらっしやいませんか。今号は、山田さんの旭川の野鳥をトップに、少々ふくらんださえずり欄や探鳥会報告でいっぱいになり

ました。御寄稿を感謝します。またお預りして久しい原稿2～3を次号に繰り越し、解説ものや初認記録などを今号に盛りこむことができませんでした。今後、各欄のスペース配分や原稿依頼、発行回数などに一考を要すかもしれません。御意見をお寄せください。なお、毎号載せてきた各地の鳥相は、次号に小林さんの鶴川の水鳥を予定していますが、そのあとがありません。各地の探鳥地案内を含め、皆様の意欲的な原稿を一層期待します。(村野記)